

生活指導というと、多くの人は、服装、ヘアスタイル、アクセサリを校則に従って管理すること、非行・問題行動を叱責したり、罰を与えたりすること、あるいは不登校や引きこもり対策のことだと考えているのではないのでしょうか。

本書で強調したいことの1つは、生活指導とはもともとこういう管理や取り締まりとは正反対の、子どもの自主性を尊重し、子どもの社会的な自立を支援する営みとして始まったということです。それがいつのまにか、生徒指導という言葉の登場とともに、子どもを学校生活に適応させる管理的な営みになってしまいました。

そこで、本書は生活指導の原点は何かを確認することから始めました。その原点を一言でいうなら、子どもを生活者としてとらえるということです。政策用語では、子どものことを「幼児」「児童」「生徒」と分けて呼びますが、中学生になったら急に「生徒」になるわけではありません。あくまでも彼／彼女にとっては12歳の自分を生きる生活者です。12歳の生活者として「生活台」と向き合い、格闘し、自分自身をつくっているのです。その営みを指導、支援、援助することが生活指導なのです。

子どもたちを、指導、支援、援助できるためには子どもたちがどのように生きているのかをつかまないといけません。その方法原理は「子どもの生活現実から出発する」ということです。とりわけ本書では、子どもたちが生きている生活世界はどうなっているか、とくにいじめ・暴力にどう苦しんでいるか、子どもたちが感じている生きづらさとはどういうものかという考察をもとに、子どもを理解

するとはどういうことなのかを提起しました。

さらに、生活指導の主要な実践方法である集団づくり、生活指導と学びとの関係、キャリア教育や進路指導、学校づくり等について、実践例を挙げながら解説しました。

ところで、本書を読まれる学生のみなさん、このテキストを講義や演習で使われる大学の先生方は、大学での学びについてどうお考えでしょうか。わたしたちが教えてきた学生は、「正解」を覚えるだけの授業、しかもそれが「正解」とも思えないのに「正解」だと強制するような授業がもっともつまらないと言います。難しくてすぐには理解できないけれども考えなければならないテーマが提示される授業、実際に考えることを求める授業がおもしろいと言います。そしてわたしたちは「大学に来てはじめて学ぶことが楽しいと思えた」という多くの学生たちと出会ってきました。

本書は、生活指導にかかわる「正解」を述べたものではありません。実践はそれをつくる人や見る人の立ち位置によって、つくり方や見え方は大きく異なります。問題行動を繰り返す子どもを叱ってきちんとさせることが教育だと考える人もいれば、「問題行動」には理由や背景があるからそれを理解することから始めようとする人もいます。落ち着きのない子どもを落ち着かせることが大事だと考える人もいれば、落ち着きのない行動をとおして何を訴えているのかをつかもうとする人もいます。

だからだれにでも納得できる「正解」はないのです。本書も生活指導にかかわる一定の立ち位置から、わたしたちなりに、今何を考えなければならないかを渾身の力を込めて提案したものです。考えてほしい点を各章の扉に **First Question** として掲げておきました。ぜひ考えてみていただきたいと思っています。

12の章立て以外にもとりあげるべきテーマはありますし、**First Question** 以外にも問うべき課題はあります。その点は、巻末の参考文献を参照いただいたり、講義・演習でのディスカッションをとおしてそれぞれに深めていただきたいと思います。本書が読者諸氏の生活指導観の形成・再構築、実践の指針となれば幸いです。

最後になりましたが、本書の刊行にあたって、有斐閣および編集担当者の中村さやかさんには大変お世話になりました。編集会議での中村さんの「これでは初学者には理解できないのではないのでしょうか」というコメントに、相手にわかりやすく伝える工夫をする大切さを学ばされました。ここに記して、深く感謝申し上げます。

2014年10月7日

執筆者を代表して 山本 敏郎

著者紹介

山本 敏郎 (やまもと としろう)

執筆担当 第 1, 2, 11, 12 章

現 職 日本福祉大学子ども発達学部教授

主 著 『生活指導』(分担執筆)学文社, 2008年。

『学校と教室のポリティクス——新民主主義教育論』(共編)フォーラム・A, 2004年。

『特別活動の基礎と展開』(分担執筆)コレール社, 1999年。

藤井 啓之 (ふじい ひろゆき)

執筆担当 第 3, 4, 9 章

現 職 愛知教育大学教育学部教授

主 著 『学校と教室のポリティクス——新民主主義教育論』(分担執筆)フォーラム・A, 2004年。

『2008年版 学習指導要領を読む視点』(分担執筆)白澤社, 2008年。

高橋 英児 (たかはし えいじ)

執筆担当 第 6, 7, 10 章

現 職 山梨大学大学院教育学研究科准教授

主 著 『PISA 後の教育をどうとらえるか——ドイツをとおしてみる』(分担執筆)八千代出版, 2013年。

『“競争と抑圧”の教室を変える——子どもと共に生きる教師』(分担執筆)明治図書, 2007年。

『学校と教室のポリティクス——新民主主義教育論』(分担執筆)フォーラム・A, 2004年。

福田 敦志 (ふくだ あつし)

執筆担当 第 5, 8 章

現 職 大阪教育大学教育学部准教授

主 著 『学校と教室のポリティクス——新民主主義教育論』(分担執筆)フォーラム・A, 2004年。

『「Kの世界」を生きる』(共編)クリエイツかもがわ, 2013年。

『新教師論——学校の現代的課題に挑む教師力とは何か』(分担執筆)ミネルヴァ書房, 2014年。

第 I 部 生活指導とは何か——生活指導の理念と歴史

第 1 章 生活指導の原理 3

生活と向かい合って育つ

- 1** 生活指導とは何か…………… 4
 生活指導の原点 4 生活指導と生徒指導 5
- 2** 学校の教育課程と生活指導…………… 6
 生活指導論争 6 機能概念としての学習指導と生活指導
 7 領域概念としての教科指導と生活指導 8 学校教育
 の構造についての共通理解 9
- 3** 子どもを生活者としてとらえる…………… 12
 適応という教育観と子ども観への疑問 12 子ども自身が
 〈自分の主人〉である 14 子どもの「生活の全体」を把握
 する 14 社会的実践主体へ育てる 16
- 4** 「生活が指導する」ことと「生活を指導する」こと…………… 17
 生活からの呼びかけに応答する 17 生活が指導する 18
 生活を指導する 20
- 5** 社会的実践主体としての自立を支援する…………… 21
 自立—発達—依存 21 豊かな依存関係をつくる 22
 自由の獲得としての自立 23 社会的実践主体としての自
 立と共同 24

- 1 生活指導の誕生……………28
生活指導の誕生の背景 28 生活指導概念の2つの系譜
29
- 2 綴方教育における生活指導……………30
自由主義的綴方教育への転換 30 綴方教育における生活
指導概念の誕生 31
- 3 大正自由教育における生活訓練的生活指導……………32
手塚岸衛の自由主義的自治訓練論 32 野村芳兵衛の生活
指導論 33 協働自治による生活訓練 35
- 4 生活綴方教育における生活指導の発展……………36
生活綴方教育における生活指導観の転換 36 東北地方に
おける生活綴方教育——北方教育 38
- 5 北方教育における「生活台」の思想と実践……………39
「生活台」と向かい合う生活者を育てる 39 「生活台」を
生きる集団の組織化 41

生活指導の類型と今日の課題

- 1 ガイダンス——受容とその批判……………48
ガイダンス論の背景 48 アメリカにおけるガイダンス理
論 49 ガイダンス理論の日本への移入 50 ガイダン
ス論への批判 51
- 2 生活綴方の復興から仲間づくりへ……………52

- 3 集団づくり論への転回**……………55
大西による『学級革命』批判 55 集団づくりの基本原理
57 「集団のちから」と「学級集団づくり」 58
- 4 生徒指導理論の展開**……………60
『生徒指導の手びき』の基本原理 60 『生徒指導提要』に
おける適応主義の強化 62
- 5 生活指導における今日の課題**……………63
毅然とした指導の流行 63 学級集団づくりにおける困難
64 子ども集団づくりへ 66

第4章

子どもの権利と生活指導

69

権利行使主体を育てる

- 1 子ども観と子どもの発達課題**……………70
子どもの発見 70 子どもの発達課題 71
- 2 子どもの発達する権利と生活指導**……………72
発達する権利の危機 72 発達する自由を保障する 75
- 3 子どもの権利条約と生活指導**……………77
権利行使主体としての子ども 77 子どもの権利条約への
日本政府のスタンス 79 子どもの権利委員会から日本政
府への勧告 80 権利の保護対象か、権利行使主体か 81
- 4 子どもを権利行使主体に育てる生活指導実践**……………83
権利行使の仕方を教える 83 抑圧した自我を解放する
85 学校をつくりかえる、子どもたちを社会参加にひらく
86

第Ⅱ部 子どもの生活現実から出発する

第5章 子どもを理解するとはどういうことか 93

- 1 「子どもを理解する」ことの難しさ ……………94
教師のなかで都合よく構成された子ども像 94 教師のなかの「子ども理解」の枠組みへの固執 95 適応を図るために「情報を収集する」という勘違い 96
- 2 相互行為としての「子ども理解」 ……………97
教師も見られている 97 仮説を立て実践をとおして修正する 98 ヒト・モノ・コトとの関係から生活を把握する 100 「私という教師」を理解させる 101 「子ども理解」における身体の意味 103
- 3 働きかけながら「子どもを理解する」 ……………104
—生活指導実践より
子どもの呼びかけに応答する 104 教師が自分の弱さと対面する 106 行為の意味と背景を子どもたちと共有する 107 子どもに自分自身と対面させる 108

第6章 子どもの生活世界と生きづらさ 111

子どもの生活世界には今のような問題があるか

- 1 「生きづらさ」の問題をどうとらえるか……………112
身体化・行動化される子どもたちの「生きづらさ」 112
存在要求・発達要求の剥奪 112

- 2** 人間らしく生きるための生活基盤を奪われる子どもたち …113
 子どもの「荒れ」の背後にある経済的貧困 113 子どもの
 貧困がもたらす「複合的剥奪」と「重層的傷つき」 115
- 3** 「居場所」を奪われる子どもたち ……………118
 「見られていないかもしれない」不安 118 子ども・若者
 の生活世界の変容と消費文化世界の浸透 118 友だち関係
 の構築と「生きづらさ」 120
- 4** 学校という場を問い直す ……………121
 〈存在要求〉〈発達要求〉の実現を妨げる学校 121 制度と
 しての学校空間の問題 122 学校における競争の問題
 122 社会的不平等を拡大・再生産する問題 123
- 5** 子どもとともに「生きづらさ」を乗り越える……………124
 —生活指導実践より
 子どもの生活現実から出発する 124 教師自身が自分の
 「生きづらさ」と向き合う 125 内なる権力性と向かい合
 う 125

第7章

いじめ・暴力のなかの子どもたち

131

- 1** 「いじめ」はどうとらえられてきたか ……………132
 —文部科学省の調査から
 調査の仕方と変わる認知件数 132 いじめの定義をめぐる
 議論が見落とすもの 133 いじめは「心の問題」か？
 134
- 2** いじめ・暴力行為の問題をどう読み解くか ……………135
 構造的暴力という視点 135 自尊感情の傷つきの表現、そ
 れを取り戻すための行為 137

- 3 「暴力」のなかの子どもたちの関係性**……………138
 垂直暴力と水平暴力 139 いじめの四層構造 140 加害者であると同時に被害者であること 140 「暴力」を支える「秩序」——集団が築いている暗黙のルール 141
- 4 「暴力」の内面化**……………143
- 5 いじめ・暴力行為に取り組む生活指導の構想**……………144
 ——生活指導実践より
 子どもたちとともに生活現実を問う 144 「いじめ」「暴力行為」を乗り越える生活指導の視点 146

第8章 特別なニーズのある子どもたち 151

- 1 「特別なニーズ」の発見と生活指導の再考**……………152
 「特別なニーズ」のある子どもたちがいる風景 152 「特別な教育的ニーズ」の提起とインクルージョンの思想 153
- 2 「特別なニーズ」教育の政治性**……………155
 「特別なニーズ」をめぐる境界線 155 「特別なニーズ」教育に内在するパターナリズム 156
- 3 「特別なニーズ」教育と生活指導との接点**……………158
 「特別なニーズ」と子ども観の深化 158 「特別なニーズ」の生活指導へのインパクト 160
- 4 「特別なニーズ」に応答する生活指導実践**……………160
 「ちがいが」のなかに「同じ」を見つける 160 「ルールづくり」とおとした「自由」の獲得 163 「ルールづくり」への参加と共同決定 164 「ともに生きる」場所を共同でつくりだす 165

第Ⅲ部 生活指導をどう進めるか

第9章 子ども集団づくりと生活指導 171

- 1 学級を子どもの側からとらえ直す……………172
教師にとっての学級と子どもにとっての学級 172 子どもの自発性と教師のかかわり 173 子どもの人間関係の重層性 174 子ども集団づくりと学級 176
- 2 生活指導の方法としての集団づくり……………178
指導の手がかりとしての班・核・討議づくり 178 班・グループの指導 179 班長・リーダーの指導とフォロアーの指導 182 討議の指導 184
- 3 討議指導の手順……………187
学級の分析 188 活動方針の討議 189 実施と総括 190

第10章 学びと生活指導 193

- 1 学習の無意味化……………194
「学校こそゲームじゃん！」 194 学習への不安と恐怖 195
- 2 生活現実を再構成する「学び」への転換……………196
「学習」から「学び」への転換 196 教科における学びと教科外における学び 197

- 3 教科学習における「学び」の試み**……………198
 生活から問いをたちあげる 198 日常の世界と科学の世界
 の往還——わたりともどり 199 生活者の視点から日常の
 世界をとらえ直す 202
- 4 教科学習を越えていく「学び」の試み**……………204
 子どもの生活現実と世界・社会の問題をつなげる 204 子
 どもたちの関心や声から出発する 206
- 5 生活指導としての「学び」の特徴**……………208
 「当事者性をたちあげる」学び 208 コンフリクトをつか
 む学び 209 対話と参加にひらかれた学び 209 関係
 と意味の組み換え——「出会い」と「出会い直し」 210 生
 きていくための学力の追求 211

第11章 進路指導・キャリア教育と生活指導 215

- 1 キャリア教育の登場**……………216
- 2 キャリア教育の構造**……………217
 キャリア発達を促すためのキャリア教育 217 教育課程を
 再編する視点としてのキャリア教育 220 キャリア教育と
 進路指導・職業教育 222
- 3 雇用環境の変容のなかでの進路指導の行き詰まり**……………223
 「働く意欲のない若者」が問題なのか？ 223 非正規雇用
 の広がり 225
- 4 働くことを権利として学ぶ**……………227
 権利としてのキャリア教育の構想 227 働く者の権利の学
 習 228 働くことをとおして世の中を学ぶ 229 働く
 人びとを学ぶ 231

1	学校づくりとは何か……………	236
	子ども・教職員・保護者の権利としての学校づくり	236
	権利としての学校づくりへの出発——戦後初期の学校づくり の理念	237
2	学校の管理・経営における校長権限の強化……………	238
	学校の管理・経営における校長の指揮監督権	238
	施設利用者としての子ども	240
	学校経営への子どもの協力参加	240
3	学校づくり政策の現在……………	243
	消費者ニーズ対応型学校	243
	地域との連携——学校評議員、 学校運営協議会	245
	学校づくりを共同で担うパートナー	246
4	学校づくりへの子どもの参加……………	247
	自治をとおとしての参加	247
	子どもの必要と要求でつくれる 児童会	249
5	学校づくりへの保護者の参加……………	250
	保護者の参加から始まる学校再生	250
	教職員、子ども、 保護者による三者自治	252
	巻末資料……………	257
	図A 戦前の生活指導の系譜	257
	図B 戦後生活指導の四類型	258
	学習文献案内……………	259
	事項索引……………	263
	人名索引……………	268

Column 一覧

- ① 三浦綾子『銃口』（初版，小学館，1994年）を読む……………44
- ② 石川達三『人間の壁』（新潮社，1961年）を読む……………67
- ③ 子どもを複眼的にとらえる……………87
- ④ ある事件から——子ども・若者がかかえる不安……………127
- ⑤ 暴力行為・いじめは増えているのか？……………148
- ⑥ 特別な教育的ニーズ……………167
- ⑦ Q-Uテストで学級を把握？……………190
- ⑧ 希望としての学び——もう一つの学びのイメージ……………212
- ⑨ 非正規雇用はなぜ広がったのか……………232
- ⑩ 学校における管理・経営過程と教育・発達過程……………253

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内での利用でも著作権法違反です。

事項索引

●あ行

- 『赤い鳥』 30
- 遊び 180
- 委員会 175
- 生きづらさ 17, 44, 112
- 異議申し立て 83
- 池袋児童の村小学校 34
- 意見表明(権) 78, 83, 247
- 異質性(異質な存在) 119, 139
 - の排除 120
- いじめ 12, 104, 132, 136
 - 加害 134
 - の早期対応 135
 - の未然防止 135
 - の四層構造 140
 - の連鎖 137
- 居場所の問題(居場所の喪失) 113, 127, 135, 179
- 意味の組み換え 210
- インクルーシブな社会 154
- ウォーノック報告書 153, 167
- 営造物利用者論 240
- OECD生徒の学習到達度調査 → PISA
- 応答 18, 101, 106, 209

●か行

- 階層化・序列化 120
- ガイダンス 4, 48
- 加害(者) 134, 140
- 科学的管理法 239
- 科学的認識 199
- 科学の世界 200
- 係活動 175
- 核 178

- づくり 56, 178
- 学習 180, 196
- 学習権宣言 87
- 学習指導 8
- 学級 172
 - のルール 176
- 『学級革命』 54
- 学級集団づくり 60, 178
- 『学級集団づくり入門 第2版』 58
- 学級総会 187
- 学級地区 177
- 学級づくり(仲間づくり) 4, 48, 54
- 学級内クラブ 175
- 学級崩壊 194
- 学校 172
 - の管理・経営(過程) 172, 238, 254
 - の教育・発達過程 253
- 学校運営協議会 245
- 学校空間の問題 113, 122
- 学校経営 237
- 学校重層構造論 239
- 学校づくり 236
- 学校適応過剰 13
- 学校評議員 245
- 活動 175
 - 方針 189
- 関係(性) 119, 177, 208
 - の組み換え 210
 - の構築 119
- 関与 196
- 管理 28, 172
 - 主義教育 6, 29
- 北日本国語教育連盟 38
- 機能概念 5, 7

- 基本的信頼感 71
- 虐待 104
- キャリア教育 216, 222
 - 権利としての—— 227
- キャリア権 228
- Q-Uテスト 190
- 教育課程 6, 220, 236
- 『教育・北日本』 38, 39
- 教育内容のポリティクス 211
- 教育の世紀社 34
- 教科外領域 4, 6, 29, 197
- 教科指導 9
- 教科領域 5, 29, 197
- 共感（的理解） 96, 104
- 協議 36
- 教材化 206
- 教師 56
 - の生きづらさ 125
 - の権力（暴力性） 57, 106, 125, 162
- 競争 73
 - 的価値観 134
 - による教育 122
- 学力—— 122
- 能力主義—— 73
- 忠誠—— 73, 122
- 共通課題 24
- 協働自治（協同自治） 35
- 共同性・集団性の解体 119
- 記録・測定 49
- 勤労観 217, 222
- グループ 175
 - の閉鎖性 178
 - 公的—— 178
 - 私的—— 176
 - 仲良し—— 175
 - ボランティア—— 176
- 訓育 10
- 授業における—— 197
- 訓練 28
- 経験主義 48
- 決議 185
- 決定 185, 248
 - 共同—— 165
 - 自己—— 157
 - 民主的—— 185
- 原案 188
- 権利行使主体 81
- 権力関係 13, 155
- 権力性（暴力性） 57, 106, 125, 162
- コア・カリキュラム運動 198
- 抗議 36
- 校長 240
- 公的争点 24
- 幸福追求権 23, 75, 82, 161, 174
- 個人主義 52
- 子ども（親） 14, 70, 159
 - の貧困 114
 - 理解 95
- 子ども集団づくり 66, 176, 178
- 子どもの権利条約（児童の権利に関する条約） 77, 153, 247
- 子どもの権利に関するジュネーブ宣言 77
- 個別化・個体化 119
- コンフリクト 209
- さ 行
- サラマンカ声明 153
- 参加 196, 236
 - 協力としての—— 240
 - 権利としての—— 236
- 三者協議会 253
- 自己肯定感（自己否定感） 74, 117, 231
- しごと 180
- 自尊心（自尊感情） 135, 137
 - 他者の—— 138

- 自治 4, 33, 57, 191, 238
 - 活動 248
 - 訓練 33, 35
 - 集団 4, 44, 59, 238
 - の単位集団 180
 - 権利としての— 241
 - 三者— 252
- 7・5・3現象 226
- 指導（指示） 79, 101
 - 方針 99, 189
 - 毅然とした— 5, 63
 - 行為・行動の— 58
- 児童会 242
- 児童憲章 78
- 児童中心主義 32, 48
- 支配－被支配関係 139, 145, 177, 178, 239
- 自分くずし 86
- 市民性 228
- 社会化 60, 199
- 社会関係 200
- 社会権 24, 248
- 社会参加 115
- 社会的実践主体 11, 17, 35, 44, 160, 197, 248
- 社会的不平等 123
- 社会認識 201
- 社会問題 204
- 自由 23
 - 精神的— 158
 - 積極的— 23
- 自由権 23, 75, 82, 174, 248
- 重層的傷つき 115
- 集団 58
 - 観 65
 - の構造 140
 - のちから 59, 67
 - の発展 161
 - 基礎— 180
- 自治— 4, 44, 59, 238
 - 第1次— 179
 - 民主的— 57, 179
- 集団づくり 4, 48, 55, 179
- 主権者 228
- 障害児教育 154
- 情勢分析 188
- 承認の問題 113, 121
- 消費者主義 247
- 消費者ニーズ 244
- 消費文化 118
- 職業観 217, 222
- 職業教育 222
- 「職業的発達にかかわる諸能力」 217
- 自立 21, 23, 75
 - と依存 22
- 人格的自律権 75
- 新教育運動 →戦後新教育
- 「新教育指針」 237, 238
- 「新時代の『日本の経営』」 226, 233
- 「新制中学校・新制高等学校 望ましい運営の指針」 237, 238
- 身体（症状） 74, 103
- 進路指導 216, 222
- スクールカースト 120
- ストレッサー 134
- 生活基盤の問題 113
- 生活訓練 29, 32
- 生活現実 20, 40, 52, 121, 124, 144, 196, 237
- 生活指導 4, 28, 48
 - 論争 5, 7
 - 学習法的— 29
 - 教科における— 7, 197
 - 訓練論的— 29
- 生活者 13, 33
- 生活台 39, 100
- 生活綴方（教育） 4, 29, 36, 53
- 生活綴方運動 198

- 生活統制 40
 生活認識 201, 211
 精神衛生 49
 生存権 82
 生存の問題（生存の危機） 113, 121, 127
 生徒会 242
 生徒指導 5, 48, 60
 『生徒指導支援資料』 135
 『生徒指導提要』 5, 60, 96
 『生徒指導の手びき』 5, 60
 世界人権宣言 77, 153
 ゼロトラランス 5, 63, 88
 全会一致 186
 全国生活指導研究者協議会（全生研） 57
 戦後新教育（新教育運動） 48, 198
 選択的コミットメント 119
 相対的貧困率 114
 組織 185
 存在要求 113, 121, 124
- た 行
- 多数決 185
 探究活動 203
 地域教育計画 198
 地域住民 245
 地方教育行政法 238
 中央教育審議会（中教審） 216, 245
 綴方科 30
 綴方教育 36
 『綴方生活』 36
 出会い直し 207, 210
 適応 12, 60, 123
 —主義 51
 討議 178, 184, 248
 —づくり 58, 178
 —の指導 185
 当事者 18, 125, 208
- 同質性（同質的な関係） 119, 139
 —の強化 120
 道徳教育 48
 当番活動 180
 陶冶 10
 討論 184
 特別権力関係 240
 特別支援教育 154
 特別な教育的ニーズ 153, 167
 特別なニーズ 153
- な 行
- 仲間づくり →学級づくり
 日常の世界 200
 ニート 224
 日本綴方の会 52
 人間形成 30
 『人間の壁』 67
- は 行
- 排除 120, 139, 154, 155
 バターナリズム 157
 発達課題 71
 発達権 73, 82
 発達要求 22, 113, 121, 124
 班 175, 178
 —づくり 58
 —の独自活動 180
 班・核・討議づくり 178
 班長指導 183
 被害者 140
 —へのケア 146
 非行 12
 PISA（OECD 生徒の学習到達度調査） 195
 非正規雇用 225, 233
 PTA 246
 —三役会議 250
 標準的ライフコース 227, 232

貧 困 104
子どもの—— 114
フォロアー 184
複合的剥奪 115
不適応 12, 49, 60
不登校 12
暴 力 12, 84, 104
——概念 135
——行為 136
構造的—— 144
校内—— 132
個人的—— 136
垂直—— 139
水平—— 139
保 護 77
——される権利 81
保護者 145, 147, 236, 243, 245, 251
——の消費者ニーズ 243
ポ ス 54
北方教育 38
『北方教育』 38
北方教育社 38
ホームルーム 49

●ま 行

まなごしの地獄 118
学 び 196
見られていないかもしれない不安
118

民主主義 28, 57, 76, 238
民主的統治能力 59, 65
みんなぼっち 120
もどり 202
問題行動 12, 75, 83, 97, 108, 114,
132, 159, 195
文部省（文部科学省） 5

●や 行

『山びこ学校』 53, 199
要求（ニーズ） 23, 66, 124, 208, 248
——の主体 208
——の発議 188
呼びかけ 18, 106, 209
弱 さ 106, 161
——への攻撃 138

●ら 行

リーダー 54, 145, 182
——指導 178, 183
民主的な—— 182
リーダーシップ 182
領域概念 5, 6, 8
ルールづくり 163
民主的な—— 178
労働者の権利の学習 229

●わ 行

わたり 199

人名索引

●あ行

芦田恵之助 30
石橋勝治 238
伊藤和衛 239
今井誉次郎 37
岩川直樹 115
上田庄三郎 37
大西忠治 55
小川太郎 8

●か行

ガルトゥンク (J. Galtung) 135
北原白秋 30
玄田有史 224
小西健二郎 54

●さ行

小砂丘忠義 36
志垣寛 37
鈴木和夫 125, 202
鈴木正気 199
鈴木三重吉 30
鈴木道太 41

●た行

高橋哲哉 18
竹内常一 196
谷本富 28
田上新吉 31

テイラー (F. W. Taylor) 239
手塚岸衛 32
デューイ (J. Dewey) 48
トラックスラー (A. E. Traxler) 49

●な行

内藤朝雄 122, 142
成田忠久 38
野口援太郎 34
野村芳兵衛 33, 37

●は行

樋口勘次郎 30
フレーベル (F. W. A. Fröbel) 70
ヘルバルト (J. F. Herbart) 28
ホッブズ (T. Hobbes) 76

●ま行

マカレンコ (A. C. Макаренко) 14,
59
見田宗介 118
峰地光重 31
宮坂哲文 7, 49, 55
無着成恭 53, 199
村山俊太郎 38
森田洋司 140

●ら行

ルソー (J.-J. Rousseau) 70

● 著者紹介

山本 敏郎 (やまもと としろう) 日本福祉大学子ども発達学部教授

藤井 啓之 (ふじい ひろゆき) 愛知教育大学教育学部教授

高橋 英児 (たかはし えいじ) 山梨大学大学院教育学研究科准教授

福田 敦志 (ふくだ あつし) 大阪教育大学教育学部准教授

新しい時代の生活指導
Life Guidance in the New Era

ARMA



有斐閣アルマ

2014年11月30日 初版第1刷発行

	山 本 敏 郎
著 者	藤 井 啓 之
	高 橋 英 児
	福 田 敦 志
発 行 者	江 草 貞 治
発 行 所	株 式 有 斐 閣 会 社

郵便番号 101-0051

東京都千代田区神田神保町2-17

電話 (03)3264-1315 [編集]

(03)3265-6811 [営業]

<http://www.yuhikaku.co.jp/>

印刷・精文堂印刷株式会社／製本・印刷株式会社アトラス製本

© 2014, T. Yamamoto, H. Fujii, E. Takahashi, A. Fukuda. Printed in Japan

落丁・乱丁本はお取替いたします。

★定価はカバーに表示してあります。

ISBN 978-4-641-22034-8

JCOPY 本書の無断複写(コピー)は、著作権法上での例外を除き、禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、(社)出版者著作権管理機構(電話03-3513-6969, FAX03-3513-6979, e-mail:info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。